

# 大豆「里のほほえみ」栽培暦

「里のほほえみ」は(独)東北農業研究センターで育成され、平成23年3月に品種登録されました。本暦は埼玉県における栽培試験の結果をもとに作成したものです。

(注)農薬は、農薬容器等に記載された使用基準を守り、最新のデータを確認の上、御使用ください。



(左:タチナガハ 右:里のほほえみ)

## ● 栽培の目安

㎡当たり株数・・・20株/㎡(66株/坪)  
株当稔実莢数・・・30莢/株  
一莢内粒数・・・1.6粒/莢  
百粒重・・・・・・40g

月	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
主な作業	←は種期→						←開花期→ ←莢伸長期→ ←子実肥大期→						←黄葉期→ ←落葉期→ ←成熟期→					
	土壌改良剤散布	弾丸暗渠施工	排水溝設置	施肥・播種	除草剤散布													
				中耕・培土	病害虫防除①	病害虫防除②	病害虫防除③	病害虫防除④	病害虫防除⑤							収穫	乾燥・調製	

## 1 播種

### (1)播種適期:6月下旬

6月上旬以前では裂皮が増加し、7月上旬以降では収量が低下するため、適期播種を励行。

### (2)適正苗立数:20本/㎡

※畦間70cmで株間7cm程度となる。  
※播種密度が高いと主茎径が細くなり、分枝、莢数が減少するので注意。

### (3)播種量:8kg/10a

◆種子消毒 薬剤例:クルーザーMAXX

## 2 施肥 (10a当たり施肥量)

施肥量は、タチナガハと同程度。

◆基肥・・・〇窒素3kg 〇リン酸10kg 〇カリ10kg

- (1)地力が低い場合には堆肥を施用。
- (2)施肥量は地力により増減。  
土壌診断を実施し、pH(KCl)を6程度に矯正。

## 3 排水対策

排水溝は圃場周囲と内側に、10m間隔で施工。  
※播種後～生育初期の湿害は苗立ち、生育量を大きく低下させるため、排水対策を徹底。

## 4 除草剤

- (1)播種後、土壌処理剤を必ず散布。
- (2)生育期に雑草が多い場合、茎葉処理剤を使用。  
※帰化アサガオ類は体系的な防除が有効(下記参照)。

### ◆薬剤例

- 〇1回目(播種後～出芽前)・・・フルミオWDG  
※フルミオWDG使用後は、必ず器具を専用洗浄剤で洗浄!
- 〇2回目(ダイズ2～4葉期)・・・大豆バサグラン液剤
- 〇3回目(ダイズ5～6葉期)・・・バスタ液剤(畦間処理)

## 5 病害虫防除

開花後の3回(上表の②～④)を基本とするが温暖化の影響で病害虫発生が増加傾向にあるため、発生に応じて防除する。

### (1)カメムシ類等・・・7月～9月防除を徹底。

※莢伸長期～子実肥大期はカメムシ類の重点防除時期。

ヨトウムシ類、ダイズサヤムシガ、ダニ類を含む。  
吸汁、食害が多いと青立ちが発生しやすい。  
※本品種は難裂莢性だが、青立ち耐性はない。

### (2)べと病・・・8月下旬から9月中旬防除を徹底。 開花後から子実肥大期に防除する。

※べと病に侵されると品質、収量が低下。

◆薬剤例:アミスター20フロアブル、プロポーズ顆粒水和剤  
ただし、耐性菌の発生を防ぐため、連用を避ける。

## 6 収穫・乾燥調製

※収穫適期を逃すと、しわ粒や腐敗粒の発生につながるので注意。

### (1)茎水分が十分低下した後、収穫する(成熟期後7～10日頃)。汚粒発生防止のため試し刈りを行う。

※成熟期:莢の大部分が褐色となり、振ると音のする時期。

### (2)しわ粒発生防止のため高温乾燥を避ける。砕粒発生防止のため過乾燥を避ける。

平成29年3月作成

JAグループさいたま・埼玉県